

NPO 法人 フラワー・サイコロジー協会

設立趣意書

2009年7月23日

「フラワー・サイコロジー協会」設立準備委員会

1. 設立の目的

「花を通して、自分をみつめ、命の大切さ、価値ある存在に気づく」この言葉をキーワードに、私どもは、これまであらゆる活動に取り組んできた。心の問題が取り沙汰されることが多い現代、本当に必要なのは、自分自身の存在価値、自分が人として生きていて良かったと自ら感じられることであると考えている。「一輪の花」を見てみよう。野に咲く花、店頭並ぶ花、華道やアレンジメントの世界で美しく咲く花、道端で逞しく咲く花、それぞれがどんな環境に置かれていても、自分の与えられた命のある限り、一生懸命生きようとしていることが私たちに伝わってくる。

花と生活・文化 花や花のある環境が人々の心に働きかけ、心を豊かにしたり、人間関係の潤滑油となっていることは誰もが実感するところである。古来より、洋の東西をとわず、花は日常生活環境に彩を添え、生老病死のあらゆる人生の局面で欠かせぬ役割を果たしてきた。花は詩歌、文学作品、絵画、家紋などに描かれ、また日常生活における日用品や装飾品などさまざまなモノに象徴記号として使われてきた。それほど、花は人と深い関係にあるにも関わらず、その花が人に及ぼす影響については未だほとんど解明されていない。

華道と心 花と人の関係の仕方にはさまざまな様式が存在する。わが国では、一輪の花をさし愛でる習慣は少なくとも平安時代には認められる。室町中期の頃に華道が確立され、日本文化を象徴する営みとして今日に至っている。

数百年をかけて継承発展されてきた伝統的な華道は、単に花を形よく生けて飾る技術を学び、装飾花を作るというだけではない。いけばなの制作プロセスでは、花をみつめ、花に語りかけ、そして自分の心を見つめる作業をくり返し、多様な心の働きや身体動作が関与し作品を完成させる。また仕上がった作品の鑑賞プロセスでは、意識に上がっていなかったことに気づくこともあり、自分らしさの再発見につながる機会が得られる。家元制度や伝統やしきたりのイメージが先行してしまう華道であるが、発祥の原点では何を求めたのかと考えると、精神修練や情緒性の涵養を通して人格の陶冶をはかることではなかろうか。花をいけることは、「花を活かす」ことであり、「人を活かす」こと、また「花を生かす」ことであり、「人を生かす」ことである。華道作品は、その花とその人の関係性で出来上がり、その人がいなければ存在しないものである。フラワー・サイコロジーの活動を通

して、人間社会においても花の世界と同じように、人との出会いや関係性がより豊かであることの大切さを伝え、普及していく。

古くて新しい生活技術の開発と提供 私どもは、こうした華道の方法論と効用を、心理学による科学研究の視点で捉えなおし、古くて新しい生活技術として、教育場面、医療・介護場面、日常生活の様々な場面に提供する華道と心理学の融合学術研究と実践活動に数年来取り組んでいる。それらの取り組みでは、花やいけばなが人々の心や行動に生じる効用が次第に明らかになってきている。

「フラワー・サイコロジー協会」では、華道と心理学の専門知識と技術を融合した新しい生活技術を開発する。そして、それらの技術や知見を教育場面、医療・介護場面、日常生活の様々な場面に普及させる。社会の広い層の人々の心の問題や生活問題の支援活動や花と親しむための啓蒙活動を促進することで、心理学や華道の世界が、人々の生活により身近に感じられ、深刻化する心の病、虐待、自殺や凶悪な犯罪など「命の問題」の防止に役立っていきたいと考えている。

フラワー・サイコロジーの活動にふれる機会を幅広い層の方に少しでも多く持っていただくため、子どもから高齢者まで展開する「花と心の教室」や「一輪花セラピー」「フラワー心理カウンセリング」「いけばな療法」の体験や臨床実践、「花のある空間での傾聴カフェ」、セミナー、シンポジウムや出版などの事業を実現させる。また活動を展開するため、新たな人材育成とともに、華道有資格者や心理学の知識や経験、資格を有する者への新しい活躍の場を提供する機会にもなると考え、それぞれの資格保持にとどまることなく、新たな展望が開けるようになる。

京都からの発信 京都で生まれた華道文化の数百年の継承発展の背景にはこの京都の地域性は深く関与しており、京都を中心に数多くの華道流派がそれぞれの技術、知識の研鑽に励んでいる。各流派の目指すところは、「花のある暮らしを取り入れ、心豊かに生きる」ことであり、この原点に立ち返り、再び京都から新たな花の取り組みが生まれる。フラワー・サイコロジーの活動は、一流派に止まらず、特定の人に限らず、日本国内に、世界へと発信できる「フラワー・サイコロジー」になるべく、幅広い分野、世代、を受け入れて、発展させていけるものであると自負している。

このように、私どもは花と人のかかわりを通して、子どもから高齢者まで幅広い社会や年齢層の人々の心をいっそう情緒性豊かなものにし、生きる力を育む各種の取り組みを企画・推進・普及するために、NPO 法人「フラワー・サイコロジー協会」の設立を構想する。

2. 本団体の活動の特色

(1) 「生きる力」を育む教育・臨床プログラムの普及

- ①花を通して生命現象への認識を深める
- ②花に触れ、親しむ方法論を学ぶ
- ③花を通して自分と他人の心の多様性を学び、心の柔軟性を高める
- ④華道を通して伝統文化の本質を学ぶ
- ⑤花を通して、社会貢献するスキルを修練する

(2) 華道と心理学を融合した新しい学術・社会的実践活動の促進

- ①花と人のかかわりに関する科学研究と人文学研究の促進
- ②華道の方法論や効用に関する科学研究と人文学研究の促進
- ③花と心の専門家（後述）による学校教育場面、地域教育場面、医療・介護臨床場面、企業社員教育場面などにおける教育・臨床コンサルティング活動および教育・臨床ケア活動の促進
- ④花のある空間で、人々が集え、心や生活の問題について気軽に援助を求められ、緊急を要する駆け込み寺的な役割や命をつなぐ場となる「傾聴カフェ（仮）」の展開推進

(3) 花と心の専門家の育成

- ①華道と心理学の専門的知識・技術を備えたフラワー・サイコロジストの育成推進
- ②華道またはフラワーアレンジメントの有資格者のキャリアデザイン支援
- ③心理学、カウンセリングの有資格者のキャリアデザイン支援
- ③花を利用した教育活動、地域振興活動、医療・介護活動などをサポートする花と心のファシリテーターの育成推進

3. 事業の内容

以下に示す4つの領域を中心に、事業を展開する。

研究活動とコンテンツ開発 ・学術研究の企画推進 ・各種プログラムの開発 ・教材、ツールの開発 などの推進	社会的実践活動推進 ・教育機関向けプログラム ・医療機関向けプログラム ・企業、団体、個人向けプログラム ・地域振興活動 などの推進	人材育成活動推進 ・フラワー・サイコロジストの育成推進 ・フラワー・ファシリテーターの育成推進 ・インストラクターの育成推進 ・一輪花セラピストの育成推進
花を用いた生活技術の普及を促すための各種事業 イベント・シンポジウム・ワークショップ・出版など		

(1) 研究活動とコンテンツ開発

本団体に参画・協賛する華道専門家や心理学者、大学の研究者、教育機関・企業・医療機関・介護機関などの専門家や実践家と共同で、学術研究プロジェクトを企画推進し、「花と心」の専門家および社会の様々な人々に対する研修・教育・臨床プログラムや教材、ツールなどの開発を推進。

【学術研究活動】

- ・ 花および花の利用に関する科学研究と人文学研究の企画推進
- ・ 花を利用した学校養育・地域教育の方法論の開発（花と心の教室）推進
- ・ 花を利用した医療・介護ケアの方法論の開発（フラワー・セラピー）推進
- ・ 学術会議での研究成果の発表および出版推進
- ・ 「フラワー・サイコロジー」の専門家養成のためのプログラムの開発推進

【教材、ツール開発】

- ・ テキスト（冊子）
 - a) 「フラワー・サイコロジー」専門家養成研修の教科書と副読本
 - b) 「花と心の教室」受講生のための教科書と副読本
 - c) 「フラワー・サイコロジー」の実践活動の協力者（教師、医師、看護師、介護士、心理士、教育者、子どもの保護者、企業責任者など）のためのガイドブック
- ・ ポータルサイト（HP）

本団体の運営組織、活動内容、イベント情報などを公開する。

- ・ 花に関する知識・技術を増進するデジタル図鑑、クイズ（WEB）
- ・ 花をテーマにした絵本（冊子もしくはDVD）などの開発を推進する。

（2） 社会的実践活動

本団体では、学術研究活動の成果を社会に還元するため、教育機関、医療機関、企業、団体、地域振興、個人に向けて、教育・臨床コンサルティング活動および教育・臨床ケア活動の展開を推進する。

【教育機関向けプログラム】

- ・ 子どもたちへの「花と心の教室」の開催及び心のケア
- ・ P T A活動での「フラワー・サイコロジー」講演会、シンポジウム、ワークショップなど
- ・ 教育従事者対象の研修プログラムの実践、講演会、シンポジウム、ワークショップ及び心のケアなどを推進する。

【医療機関向けプログラム】

- ・ 介護老人施設などにおける認知症ケアプログラムなどの実施
- ・ 医療機関における花を用いたケアプログラムの実施
- ・ 医療従事者対象の研修プログラムの実践、講演会、シンポジウム、ワークショップ及び心のケアなどを推進する。

【企業・団体向けプログラム】

- ・ 経営者向け、従業員向け研修プログラムの実践、講演会、シンポジウム、ワークショップ 及び心のケア
- ・ 社会人教育支援
- ・ 顧客向け、「花と心の教室」の開催、講演会、シンポジウム、ワークショップ
- ・ 企業、団体とのコラボレーション企画の実施などを推進する。

【地域振興活動】

- ・ 商店街や地域の集会での「花と心の教室」の開催
- ・ 地域活動とのコラボレーション企画
- ・ 花のある空間、いけばなや心理学、カウンセリングを身近に感じられる「傾聴カフェ（仮）」で地域の方の心のケア

などを推進する。

【個人向けプログラム】

- ・「花と心の教室」の開催、講演会、シンポジウム、ワークショップ 及び心のケア（フラワーセラピーや心理カウンセリングなどの実施）

(3) 人材育成活動

本団体の活動を推進するための「華道」と「心理学」の専門知識を有する人材を育成し、認定資格を与える。

- ・初級フラワー・サイコロジスト

（研修期間約 1 年を経て資格試験合格者に授与）

- ・中級フラワー・サイコロジスト

（初級資格修得後研修期間約 8 か月を経て資格試験合格者に授与）

- ・上級フラワー・サイコロジスト

（中級資格修得後研修期間約 4 か月を経て資格試験合格者に授与）

- ・最上級フラワー・サイコロジスト

（上級資格修得後実践活動を積み、認定委員会が実績を認め資格試験合格者に授与）

- ・フラワーファシリテーター

（研修期間約 6 か月を経て資格試験合格者に授与）

- ・「花と心の教室」インストラクター

（華道及びフラワーアレンジメントなどの有資格者で研修期間約 6 か月を経て資格試験合格者に授与）

- ・一輪花セラピスト

（臨床心理士、心理カウンセラーなど心理職の有資格者で研修期間約 6 か月を経て資格試験合格者に授与）

(4) 花を用いた生活技術の普及を促すための各種事業

- ・ 自主開催の「フラワー・サイコロジー」体験講座
- ・ 自主開催または他の団体との共催による「フラワー・サイコロジー」講演会、シンポジウム、ワークショップ、出版など
- ・ 各種団体の委託による「花と心の教室」開催など
- ・ 地域振興のためのフラワーファシリテータの派遣など

(5) その他の事業

- ・ いけばな作品の販売
- ・ 花のいけ込み
- ・ 花の展覧会

などの推進

4. 組織案

(1) 顧問

中野恭心 華道本能寺家元総務
城守国斗 医療法人三幸会理事長
畑山 博 医療法人財団足立病院長

(2) 理事会

理事長 1名 余語真夫 同志社大学心理学部教授
副理事長 1名 浜崎英子 華道本能寺家元華務職、心理カウンセラー、
フラワー・サイコロジー研究所所長
理事 若干名 岩崎真理 インタークエスト代表
金岡奈美 株式会社 KN 通商代表
西田喜雄 アクトアッププロダクション代表
伊藤幸香 メンタルサポートオフィス Sachiling 代表
心理カウンセラー
久保亜佳美 華道本能寺教授師範

(3) 監事 1名 松村一郎 松村一郎税理士事務所

(3) スタッフ

小林好子 心理カウンセラー
影山香澄 華道本能寺教授師範
矢野由記子 心理カウンセラー

5. 事業展開のステップと活動予算（案）

(1) 「フラワー・サイコロジー協会」事業計画（2009年度～2010年度）別紙参照

(2) 活動予算（案）別紙参照